

# しあわせ

3月号



いこんどう　おうじょうは  
已今当の往生は  
この土の衆生のみならず  
じっばうぶつど  
十方仏土よりきたる  
むりょうむしゆふかけ  
無量無数不可計なり

(『浄土和讃』二九)

阿弥陀仏の淨土へは、過去・現在・未来に  
わたり、この娑婆世界の人々だけではなく、  
あらゆる仏土から、無量無数の計りしがれな  
い人々が生まれ来るのであります。

(意訳)

## 「手を合わす母」

いつも三月花の頃、お前十八、わしゃ二十歳。  
死なぬ子三人、みな孝行。死んでも命がありま  
すように。

諸行無常・諸法無我という厳しい現実の中で  
有りもしない夢物語を笑いに代えて楽しもうと  
する昔の人の智慧でありましょうか。

有り得ないことだからこそ、笑いにもなって  
楽しめるようです。自然も人生も現実は厳しいもの  
です。

やがて、入園・入学・入社。心弾む新年度に向か  
いますが、言葉の響きとは裏腹に厳しい現実が待つ  
ています。

シヤバ（苦惱の世界）と言われるようと思うよう  
にならない学校生活や社会生活ですが、その中にこ  
そまた、大きな感動が潜んでいます。それが何か、  
それを見いだせてこそ、人間に生まれてきた意味が  
あり、甲斐があるようです。

「人身受け難し、今すでに受く」この一言が言える  
身となつてこそ的人生です。

## 法座案内

春季彼岸法要

日時 三月 一九日 昼席より  
一一〇日 昼席まで

講師 三浦 真証師

(奈良県 本願寺派布教使)

法味の会 一ご和讃の味わい  
日時 三月 二十七日 午前一〇時(

府中町山田二丁目二一五十三  
柏原山 龍仙寺  
電話(0822)81-14823



## 【ご和讃をよむ㉙】～会える世界～

(2)

### しあわせ

2020年3月

(3)

### しあわせ

2020年3月

いのちも、出遇いも、かけがえのないものと言われます。かけがえがないとは、掛け代えができるない、代えがきかないことです。今この時は、二度と訪れる事はない。あなたというのちは、宇宙の果てまでいつも代わりはない。そのような代えのきかないものこそ、いのちであります。では、わたしは本当に、代えのきかない「いのち」を生きているでしょうか。人の「ころ」に会っているのでしょうか。代えのきかないものを代えがきくように見ていて、それは見ているのではなく、見失つているのです。有り難いものを、当たりまえにするわたしの心。つねに自分中心にものを見ない。隠しているのは、わたしの心ですね。

先日、夜遅く帰宅すると、わたしの寝るはずの場所に、幼い娘たちが寝ていました。わたしの寝場所は五〇センチしかありませんで

にわたって、数えきれない無数の人々が生れて来る。今回の和讃では、そのようにお淨土が讃えられています。数えきれない人々が、あいつどい、ともに会える世界、それが阿弥陀さまの淨土なのですね。しかし、淨土こそ会える世界であるならば、この世界はどうなのでしょう。『無量寿經』には、人はみな、この迷いの世界に「独り生れ、独り死に、独り去り、独り来る」と説かれています。わたしたちは、多くの人に出会うけれど、どんな愛する人ともいつか別れいかなければならぬ：と考えています。しかしお釈迦さまは、まったく話が違うことを仰るのです。あなたは独りの世界を生きているけれど、過去・現在・未来の数えきれない人々と会わせていただけの世界がありますよ。それが阿弥陀さまの淨土なのですよ、と仰っているのですね。

毎年三月に行われる幼稚園のおわかれ演奏会、思い出づくりとして保護者の方々や先生方にも舞台で歌つてもらうのですが、今年選曲された「いのちの歌」「LIFE」という二曲の歌に、偶然、おなじ歌詞がありました。

「大事なものは、隠れて見えない」

サン・テグジュペリの『星の王子さま』や、金子みすゞさんにも同じような言葉がありましたが、とくに「隠れて見えない」というところにドキッとさせられます。ほんとうに大事なものは、隠れて見えない。隠しているものがいるのですね。それはいつたい誰でしょう。哲学者の西田幾多郎は、六歳のわが子を失ったときの悲しみを、ドストエフスキイを引用しながら、次のように書き残しています。「子どもはまだできるから、と慰めてくれる人もある。しかし、親はけつして、子どもを失つたことが悲しいのではない。ソーニヤ（そこの子）を失つたことが悲しいのである。」

したが、その寝顔を見ていて、ふと思いまし  
た。この子たちとも、いつか別れていかなければならぬときがくるのだな：と。しかし次の瞬間、ハツと気付かされます。今日のこの子たちには、今日しか会えない！ということに。二度と会えないであろうその寝顔、この目に焼きつけようと目を凝らしますが、見えてくるのは、そのかけがえなさがどうしても見えない自分でした。いつたいこの目で、何を見ているというのでしょうか。そして思い合せられました。この子たちと会える世界、それがお淨土であったなあ、と。

已今当の往生は

この土の衆生のみならず：

お念佛いただきましょう。父とも母とも、妻とも夫とも、子や孫たちとも会える世界、過去・現在・未来にわたる数えきれない人々と会える世界を、ともに聞きひらきましょう。